

## 議長定例記者会見 会見録

日時：平成27年9月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

### 1 冒頭の挨拶

### 2 質疑項目

自由民主党総裁選について

補正予算について

議会日程について

地方創生に関する政策討論会議について

安保法制について

### 1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。ただ今から、9月の議長定例記者会見を開催いたします。まずはじめに、台風18号で集中的に伊勢志摩が被害を受けておりますが、今まだ茨城県・栃木県の方でも大きな災害が出ております。災害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

まずは、9月4日に私の方から地方創生に関する知事への提言を行ったことで、政策討論会議がひとまず一区切りしましたので、所感を述べさせていただきます。地方創生に関する政策を広く県民の視点に立ったものにするためには、議会の役割が重要という認識の下、6月30日に地方創生に関する政策討論会議を設置しました。政策討論会議の設置は、平成20年10月に設置された財政問題に関する政策討論会議以来、7年ぶりのことで大変意義深いことであると感じております。当政策討論会議では、これまで7回の会議を開催するなど積極的に討議を行ってきたところであり、これまでの討議のなかでは、町長や地方創生に取り組む市の職員、地元のシンクタンクの有識者からの意見聴取も行いつつ、限られた時間の中で集中的に議論を行ってきました。先日、9月4日には、これまでの議論の成果を地方創生に関する知事への提言としてとりまとめ、基本的な在り方・自然減対策・社会減対策・地方創生を支える取組・国への要望の5つの項目として、知事に対して申し入れを行ったところです。知事からは、「提言内容の中で直ちに取り込めるものについては『三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)』の最終案に取り込み、また、中長期的なものについては、総合戦略の改訂の中で随時反映していく形にしたい」との回答をその場でいただきました。当政策討論会議については、総合戦略の最終案が示される前に議会としての意見を申し入れるということで進めてきたところであ

り、今回、知事への提言を行ったことで、その役目を果たすことができたのではないかと考えています。今後、政策討論会議の提言がどのように反映されていくのかについては、所管の常任委員会や人口減少対策調査特別委員会を中心に、しっかりと調査・審議していきたいと考えています。また、今回の提言の中で申し入れた国への要望に関しては、県議会としても、今後、意見書として国に対して申し入れを行っていきたいと考えています。

なお、9月7日からインターンシップ実習生を2名受け入れており、本日は会見の見学をさせていただいております。

私の方からは以上でございます。

## 2 質疑応答

自由民主党総裁選について

(質問) 総合戦略について、昨日我々には最終案が地方創生会議の中で示されましたが、まだ議長はご覧になっていないですか。

(議長) そうですね。まだですね。今度、全協で報告していただいて議論が始まると思っております。

(質問) わかりました。では地方創生を掲げている安倍首相が自民党の総裁選で再選されたわけですが、改めて今後の政権運営の期待感あるいは注文みたいなものがあれば教えてください。

(議長) まさに人口減少、それから地域がこれから地域として保たれていくのかどうか大変厳しい現実を突きつけられていると思っておりますし、それを何とか克服したいという思いが、今回の地方創生の全国的な政策として出てきていると思っております。我々としても、それを特に三重県の場合はそういう地域の半数を抱えておりますので、しっかりとそういう状況にならないために、地域が崩壊していかないためにということで、これは大きな課題だということで、私も今回、地方創生の場をもって議論してきたところですので、是非ですね、政府もその思いをしっかりとやっていただきたいと思っておりますし、安倍総理には本気でやっていただきたいし、我々もそういう思いで知事に提言を今回させていただきました。知事も一生懸命考えて、最終案をまとめていただいておりますけれども、みんな本気でやっておりますので、そのことを理解していただき、逆に地方から現場の目線で、いろいろ訴えていきたいと思っております。特に国への要望も今回挙げておりますので、そういった場でもしっかりと伝えていきたいなと思っております。

(質問) 安倍さんが退陣でもしない限り、来年のサミットでは議長を務めるといことが濃厚ですけど、改めてサミットへの期待感あるいは注文みたいなものが総裁選の再選を受けてあればお願いします。

(議長) サミットについても、三重県で開催されるということ。それから伊勢志摩サミットという名前も付けていただいて動き出す。それを提唱した総理が、そのまま引き続いて今回再選されたということですので、三重県的に地元としては、来年の5月26日、27日に向けて、まさに三重県を世界中の隅々にまで売り出す、名前が浸透するチャンスでもありますし、それに乘せて三重県の良さをしっかりと訴えていく、そういう場として私どもとしては活用したいと思っておりますので、まずはサミットの成功に向けて、政府には全力で動いていただきたい。当然国の仕事なのでそうなのですが、議会としてもサポートしていく、応援していく、そういった姿勢は最初から出しておりますので、しっかりとやっていきたいと思っております。ただ、すでにいろいろなところから、「後どうなるのか」「サミットの間中はどんな不自由なことがあるのか」県民から、特に観光地でもございますので、「お客様どうなっていくのか」「安全面はどうなのか」といった声もいただいておりますので、議会としては全面的に応援することと、住民をどう守っていくか、そういった両面でしっかりと支えていきたいと思っております。

#### 補正予算について

(質問) サミットの関連事業費がたくさん入っている補正予算、三重県が発表しているわけですけど、もちろん具体的な審議はこれからですけど、当然概要はたぶん把握されているとは推測するんですが、この時点で議長としての今回の補正に対する受け止めがあればお願いします。

(議長) 中身についてはこれからしっかり分析したいというふうに思っておりますので、ただ、それぞれの該当の常任委員会なり、これから各議員の方でしっかりチェックをしていくというふうに思いますので、そのへんにまずは期待をしたいなというふうに思っております。突っ込んで精査をまだしてございませんので、そういった各議員からの発言なり提言なりを受けまして、私の方からも言えることはきちっとしていきたいなというふうに考えております。

- 第二県政記者クラブも含めてどうぞ -

#### 議会日程について

(質問) 知事が9月1日の代表者会議に出られて、訪米の事をご報告されて、9月会議の質問日程をずらすっていうのを、あの段階で代表者でご了承いただ

いて、8日の議運で正式に認められたわけですけど、もともとの訪米云々ってやつのは確か7月下旬でしたか、正副のほうにあったと思うんですけど、そこから9月1日まで経過した経緯っていうのは、受けたときの正副の状態と、あとここまで1か月半くらいかかったっていう、それについて事実関係だけちょっとお聞かせいただけますか。

(議長) こういう方向っていうことで口頭でお話があって、ただ、これはあくまでも代表者会議、いわゆる各会派の代表の方々の大きな課題なんで、ご意見を聞かせていただかないかんということを申し上げましたし、そんな状況の中で代表者会議が9月1日ということで、そこまで延びてしまったという、9月1日でも判断はまだ間に合うのではないかなっていうふうに単にそう思っただけなんです。

(質問) 申し入れがあったのは7月ですか。いつぐらいですか。確か植田副知事が正副に行かれてるんですね。

(議長) さっきおっしゃったぐらいですよ。

(質問) 7月。

(議長) 7月21日。

(質問) いろんなタイプがいらっちゃって議会ってのは構成されてるんで、それはそれで構わんと思うんですけど、ただし、議会人としての意識なりとか、あるいは誇りとかそういうものってのは多分一定されていると思うんですよ。そういうのからいけば、議事日程を動かすということは歴代ない中で、そりゃおかしいじゃないかという一言ぐらいは本来あってしかるべきだと思いますが、そこはお優しい議長は取ってそういうことはおっしゃらなかったんですね。

(議長) おかしいとは思いますが、そりゃ当然。

(質問) 思うでしょう、歴代、先輩議員たちが作り上げてきた三重県議会史からいったって、それを逆に今の議員たちで覆す形になりますので、ある意味議会の力が強いときはこんなもの突っぱねた場合もありますよね。

(議長) この課題がね、課題だけにどうなんかなっていう、私自身の中にはちょっとそういう迷いもありましたですよ。

(質問) 迷い。

(議長) 当然議会の日程っていうのは最大限に守らないかんというところもありますし、それから、たぶん一生かかっても回ってこない、それから、三重県政を進めていくに、大事な一つにもなるんじゃないかという、知事が向こうで三重県をちゃんと宣伝してくれることの価値、そういった意味での迷いっていうのはありましたですね。それはしっかりと全体で議論してもらったらどうですかねという、そんな思いで皆さんに相談させてもらったと、そんな感じですかね。

(質問) 今後含めての話ですけど、サミットはオールマイティじゃないですよ。今後、こういうことってのは多々あると思うんですよ。要は、総理とか官邸がですね、ある程度サミットについて話したいといったときに、知事の今後の日程が変更になったりとか飛ぶことがこれから開催に向けてもっとスケジュールがハードになると思うんで、そういうことは出てくると思うんです。今回、特例中の特例と言ったけど、その保証は果たしてどこで取ってるのかって話ですよ。そのへんはいかがですか。

(議長) しっかりと三重県議会としての原則っていうものを踏まえたくて対応したいなというふうに思っております。

(質問) でも、原則そのものは元々正副のところでは受けられたときに崩してるわけでしょ。

(議長) 崩すというよりか、皆さんで相談をという、そういう判断をさせてもらったんですけど。そこでこう、突っぱねるとかそういうことはしなかったですよ。ただ、これ1回限りではないかという話は当然その場ではさせてもらうというふうに思いますが。そうしたいと思いがすが。

(質問) 何らかの、ある意味特例中の特例であるとか、異例中の異例だからとか、今回限りにしてくれっていう話は1日の代表者会議でありましたけど、この保証っていうのはあるんですかっていう話ですよ。

(議長) あの時の保証というか、あの時の議論じゃないですか。

(質問) どういうことですか。

(議長) そのときに、知事がおっしゃって、各議員から話が出た。いわゆる議会の方向性っていうのは、代表者会議が全てかなと。そういうケースについてはですね。

(質問) いやだから、行間読めって言われても、会見なんで、きっちりそれは議長のお言葉でお答えいただきたいんですけど。要するにあのときの各代表者の意見からしたら、今後はこういうことは起こり得ないだろうと。知事もそこまではある程度確約したというふうに議会としては捉えるという意味ですか。

(議長) あの場合は公の場で皆さんが見てる前でそういうことがあったということなので、そのように思いますけど。

(質問) そのように思うってのは、要は今後は知事は気を付けるだろうというふうな、ある程度見込みはあるってことですか。

(議長) そうですね、そうやっておっしゃってましたから。

(質問) 翻って、8日の日に議運に植田さんが、副知事が代わりに出られて、三谷さんが訪米の詳細日程はどうだってお聞きになったときに、植田副知事が知りませんというか把握しておりませんと、言われましたがねえ。これは、知事自身が1日に、今後議会には丁寧な説明をしていきたいという話と矛盾するじゃないですか。まあ多分、議長は昨日の知事定例会見しているのを生で見られたか、あるいは何か文書で読まれましたか。

(議長) まだちょっと。

(質問) 読んでないんですね。

(議長) ペーパーで目をちょっと通した程度でございますが。

(質問) そこで、知事はもう答えてますけど、要は本来国の箱口令の部分があるから、言いたいことも言えなかったっていうふうなことで、本来であれば議会側の納得もあったかもしれませんが、そこは中途半端になってるじゃないですか。そういうこと含めて、ある程度議会側として、知事の方に仮に箱口令があってもそれはそれで、中身は言えないにしてもですね、そのへんのことっていうのを意思疎通するのは図りたいぐらいのお気持ちはあるんですか。

(議長)それはあります。

(質問)そのためになんという汗をかかれるんですか。議長として。

(議長)そうですね。なんという方法があるのでしょうか。

(質問)それは、我々に聞く話じゃないでしょ。

(議長)なんという方法があるのかなあ、という感じですね、今は。

(質問)全体に今回のことは、異例中の異例で、今後このようなことはあり得ないだろう、という今前提なんですね。

(議長)代表者会議の議論をそのまま今のところ私はインプットしておりますが。あまり疑うタイプやないものですから。

(質問)疑うタイプじゃなくて今まで失敗してきたことって多々ありますよね。

(議長)まあ人間誰しも。

地方創生に関する政策討論会議について

(質問)次、政策討論会議の提言なんですけど、過去の政策討論会議の提言書等と見比べてみると、今回ののは全体に個人的な感想じゃなくいろいろな聞き回ってもレベルが低いという話が出てて、それはなぜかって言ったら、例えば国調でやらないと調べられないような、移住者の属性であるとか、そういったものを言いつばなしで、述べてるだけの話で、実際の具体策を示してないじゃないかと。逆に市町を使ってやるならば、各地域の選抜というか、そこで選ばれた議員の方々が本来協力してですね、やるのが筋だけど、その協力体制、議会に対しての姿勢も何も示されてないと。そういう話もありますが、そのへんはいかが思われます。

(議長)選び方についてはそれぞれの会派の方にもお願いをして、地方創生に関心の深い方々に出てきていただいておりますということなんです。地域的なものも比較的バランスよく配置されているのではないかなというふうに思いますが。レベル的には私は、結構、短期集中の議論にしては、良いものが出来上がったかなあとは思ってます。完全とは思いませんけど。

(質問) 2回目の三公費の問題なんか、1か月かそこら、1か月半約2カ月で作ってますやん。それから言ったら今回よりもっと短期集中ですよ。少なくとも、今回のでいくと、南にっていうか、多気町と南伊勢町ですので、どっちかっていうと中南勢に偏った首長の意見じゃないですか。本来ならば、当然移住が少ないとか人口過疎の問題ないとか言うにしても、北からもやっぱり選ぶだろうし、それと、もしそういうことに偏りが無いって言うんだったら、市長会の会長なり町村会の会長を呼んで、やるのが普通の常識じゃないですか。これ中南勢に偏ってしかも、多気町と南伊勢町の町長をお呼びになったっていう、趣旨そのものがよくわからない点がありますよね。必ずしも県全体29市町のなかで評価されてる市町ではないです。モデルケースになるんだったら、例えば名張市であるとか、北は北であれならば、移住の関係といっても北勢の方である程度人が集まってきているいなべ市であるとか。そういうふうなところの話も当然聞いて勘案すべきではないですか。

(議長) まさに短期決戦型の議論だったっていうことで。さきほど私が決して満足いけるものではないと申し上げたのは、そのへんのもっとこれもあれもこれもって意見もいろいろあったのですけれども。最終的には極端な例と言いますか、多気町と南伊勢町では、またタイプの違う今回の地方創生への考え方をお持ちなので、そういった違う所から来ていただいたこと自体は良かったんじゃないかなと思っておりますが。

(質問) あまり枝葉入ってもしょうがないんですけど、でも多気町長が来られて言った意見ってのは、結局アクアイグニスの、多気町への進出ってのを県費含めて支援してくれっていう一対一対談で知事と話されたことの焼き直しじゃないですか。あれがどう地方創生のプランニングに関係するんですかね。

(議長) 企業誘致をしてそして周辺から労働者を来てもらおうような、彼はそういう目線での提案でしたし、彼の提案を受けて全委員がそれぞれの目線からどうしたら地方創生に、ああいう多気町みたいな所についてはどうなのかということで議論をさせてもらったし、南伊勢町はまた全く逆の立場で、お二人の話の聞いている限り、私は非常に両極端で幅広かったのではないかなというふうに思ってます。

(質問) ダメもとで聞きますけど、要は政策討論会議で参考人を呼ぶ時にある程度発言力の強い方の議員の地域であるとか、選挙区ですよ、そこから首長出してやってくれっていうことであのメンバー決めたっていうことはないんですか。

(議長)それはありませんね。幅広い各委員の皆さんにどうですかということ、声をかけさせていただいて、そこからこの方はどうですか、この方はどうですかという中でお二人が選ばれたというふうに理解しておりますけれども。

(質問)まあダメもとだからいいですけど。もう一度今回のやつ含めて提言をお読みになれば分かりますけど、三公費も財政も含めて結構、大手新聞社の編集員の方も呼ばれたりとか、金がかかるかからないは別にしてですよ、それなりの議論のやっぱり深め方の有識者を呼ばれていると思うので、当然の提言の中身が、質が違ってくるのは当たり前の話で、その辺は一度差し出がましいですが、議長も過去に目を通して、質が今回本当に高いのかどうかというのをまた聞かせてください。

(議長)はい、分かりました。何回も読みましたけど、またしっかりそういう目線で読んでみたいと思います。

(質問)高いでしょ。前の方が。

(議長)ありがとうございます。

#### 安保法制について

(質問)あと、安保法制ですけど、今の審議っていうのを、県議会としては慎重審議の意見書を出されて、自民党の方はのられなかったですが、一応可決した形で、賛成多数で可決して意見書送ってますけども、いまだ安保法制の国会審議、終盤は16日くらいに採決がうんぬんという話がありますが、これについてはいかがお考えですか。

(議長)三重県議会としてですね、慎重審議を求めてきたわけですけども、そういう状況に進みつつあることに対しましては、慎重に審議したという立場の議員さんもおみえになるかもわかりませんが、私個人としては、議長という立場では我々の提言がいまいち、きちっとされていないという、そういう忸怩たる思いはありますし、個人的にもですね、客観的に情報も新聞等々を見る限りはですね、また国会の議論を聞いても、非常に急ぎすぎ、そういう思いがありますね。

(質問)政党の立場が違うんで副議長はいかがですか。

(副議長)三重県議会として、その意見書を提出したことについては議論があったわけでございます。副議長という立場はやはり県議会全体として、そういう意見がある中でですね、国において、しっかりと議論をされてですね、しかるべき時に、しっかりと採決をし、決定すべき内容かなというふうに思っております。個人的にはですね、いろんな情報がありますので、いろんな国民には意見があるかなと、周知できていない部分もあるんかなというふうには感じてますけど、やはり国として責任ある対応をとっていただくというものと確信をしております。

(質問)国として責任ある対応というのは、要はある程度、日米の協定の強化って意味の今の安保法制の可決の方向がいいんだというお話ですか。

(副議長)もちろん今まで日米安全保障のもとで、現在ある平和と安全が守られているというふうに私も思っておりますので、さらにこの世界情勢、アジア情勢を鑑みた時に、しっかりとした日本の立ち位置、またあるべき姿を、日米安全保障のもと、現状に応じた対応を、やっていただいて少なくとも日本の安全、また安心をしっかりと確たるものにしていただきたいということに尽きるわけです。

(質問)今回の安保法制が通れば、そういうふうな強化に繋がると副議長はお考えなんですか。

(副議長)えっ。

(質問)安保法制が可決されれば、それが日本の安全性をより確保するという方向に繋がるといふふうにお考えなんですね。

(副議長)これはですね、一つの法律の整備でありますので、国際的な問題があったりですね、日本独自で決定できない部分でありますので、一つの法律を改正しようとしている訳でありますので、これは国の方において責任をもってやっていただきたいというふうに期待をするということです。

(質問)いや、答えになってないですよ。観点ずれてますよ。今回の安保法制が可決された場合に、要は日本の防衛力とかあるいは諸外国へのある程度、抑止力的なものが強化されるかどうかということについてどう思われますかというふうに聞いているんですね。

(副議長)これはやはりですね、日米安全保障のもと、今回の法改正によりまして、対外的にもですね、評価されるというふうに理解しています。

( 以 上 ) 11時00分 終了